

## 会 議 録

会議名	平成 21 年度 第 4 回 相模原市行政評価検討委員会		
事務局	企画部 経営監理課		
開催日時	平成 22 年 1 月 21 日（木曜日）19 時から 20 時 30 分まで		
開催場所	市役所本庁舎本館 2 階 第 1 特別会議室		
出席者	委員	5 人（吉田座長、西本委員、出沼委員、戸川委員、西委員）	
	その他	0 人	
	事務局	3 人（経営監理課長 外 2 名）	
公開の可否	公開可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由	/		
会議次第	1 座長あいさつ 2 傍聴の確認 3 議題 平成 21 年度施策評価 3 次評価報告書について・・・資料 1 改善計画書について・・・資料 2 4 その他 次回スケジュールについて		

### 【審議経過】

主な内容は次のとおり。

- 1 座長あいさつ（吉田民雄委員）
- 2 傍聴の確認（なし）
- 3 議題  
平成 21 年度施策評価 3 次評価報告書について・・・資料 1  
改善計画書について・・・資料 2
- 4 その他  
◇次回のスケジュールについて  
次回は 3 月 9 日（火）19 時から開催する。

以下主な意見、質疑応答等（○は委員の発言、●は事務局の発言）

（平成 21 年度施策評価 3 次評価報告書について）

- 資料の 4 ページの表現は、平成 21 年度の評価が厳しい結果であったように誤解されてしまう。表現を改めるべき。
- わかりやすい表現に改める。
- 第 3 章の構成は、現在の「1.」を最後に持ってきて「4.」とし、「2.」から「4.」を繰り上げた方がよい。
- 第 7 章には、予算を使い切ることを前提とするのではなく、予算節約制度やゼロ予算制度など、予算制度の見直しについて提案する内容を可能であれば入れるべき。
- 同じ施策で前回と比べて評価がどう変化しているのか、傾向などを分析して

記載する必要があるのではないか。

○全体を通して、効率性の評価が適切に行われなかったために評価が甘くなっているが、例えば前回と同じ基準で評価しなおした場合の比較などがあった方が分かりやすい。

●時間的な制約もあるので、可能な限り対応する。

(改善計画書について)

○課題に対して具体的な対応をとるというのが、3施策だけだと思う。PDCAサイクルが機能していない。

○「市だけでの対応では限界がある」というような表現が散見されたが、それは当たり前の話。市としても情報提供を行うなど、できることはあり、この改善計画書は言い訳になってしまっている。

●まず評価意見に対する所管課の分析・見解を記載することにしたため、医療や環境の施策は言い訳のようになっているが、言い訳だけで終わらないような表現に修正をした経緯はある。

○財政状況が厳しいことは理解するが、「予算が無いから何も出来ない」では何も変わらないわけで、予算が無い中で取れる対策について知恵が絞られていると感じられない。

○施策所管課側の職員と話す機会があるが、評価などはやらされている感がある。これでは進まない。

○構成事務事業の項目数のシーリングを行うなど、予算制度そのものを見直すような大胆な切り込みが必要。

○従来のABCのような評価でなく、「廃止」、「見直し」というような評価を行ってはどうか。

○「財源や権限がない」という表現は改善計画書の中からは削除すべき。

●問題がある表現は改め、具体的な対応を記載するよう更に調整し、再度付議する。

#### 【決定事項】

◎平成21年度施策評価3次評価報告書、改善計画書ともに、内容を修正し、3月9日(火)の第5回行政評価検討委員会で再度審議する。

#### 相模原市行政評価検討委員会委員名簿

氏名	所属団体等	出欠
吉田 民雄	東海大学教授	出
霧生 卓	公認会計士	欠
野中 保	相模原市自治会連合会	欠
西條 政夫	相模原商工会議所	欠
佐々木亮一	相模原青年会議所	欠
川前 寿一	相模原地域連合	欠
西本 敬	相模原ボランティア協会	出
出沼 聡	公募委員	出
戸川 武彦	公募委員	出
西 秀秋	公募委員	出